THE ROTARY CLUB OF KITAMI

Rotary

R. I. DISTRICT 2500 JAPAN

北見ロータリークラブ週報

●創立/1937年9月19日 ●事務所/北二条ビル 3階 302号 ☎25-2824 ●例会日/毎週水曜日 ●例会場所/ホテル黒部

HPアドレス https://www.kitamirc.jp

2025~2026年度国際ロータリーテーマ

UNITE FOR GOOD

R.I. 会長 フランチェスコ・アレッツォ

第3528回例会・2025年11月19日

本日のプログラム

新人卓話 「ＡＩを使いこなす」

合同会社 Fertility
代表社員 藤田 知仁 会員

第3527回例会（11月12日）の記録

会長挨拶 小林会長

皆さん、こんにちは。本日は、日本赤十字北海道看護大学での職場移動例会となります。この会場をご提供していただきました安酸会員に感謝申し上げます。1999年４月に大学が開校してから約2,500名もの卒業生を輩出し、この地域における医療の最前線で活躍されていることと思います。また、看護大の学生の皆さんは、飲食店のアルバイトを通じて、若い力で北見の街を元気にしていただいています。

赤十字というのは「人道、公平、中立、独立、奉仕、単一、世界性」といった７つの原則から成り立っております。「奉仕」についてはロータリーと同じ考え方だと思っています。赤十字は、世界に190カ国という最大のネットワークを有しています。赤十字のマークは、創立者であるアンリー・デュナンの祖国であるスイス国旗の白と赤を反転させているものです。イスラム教国などは、赤新月という月のマークが使用されております。2007年にはそれら２つに加え、白地に赤いひし形を配したレッドクリスタルが認定され、第３のマークとして使用されています。1965年にウィーンで開催された第20回赤十字国際会議にて、赤十字の基本原則が決議されました。赤十字の基本原則は、赤十字が長い活動の中から形成されたものです。生命は敵味方関係なく救わなければならないという信念のもと、人道こそ赤十字の基本であり、その他の原則は人道原則を実現するために必要であると言われております。人道－人間の命と健康と尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努める。公平－いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先処置する。中立－全ての人に信頼を得て活動するために、一切の争いに加わらない。独立－他の救援機関の人道協力に赤十字として自立性を持つ。奉仕－利益を求めず、人を救うために自発的に行動する。単一－国内の唯一の赤十字社として、全ての人に開かれた活動を進める。世界性－世界に広がる赤十字のネットワークを活かし、互いの力を合わせて行動する。以上の７つの原則は、私達ロータリアンも理解を深めることが大事ではないでしょうか。本日は安酸学長に講演をいただきますので、お話の中で参考になることがたくさんあるかと思います。今日１日どうぞよろしくお願いいたします。

幹事報告 高橋幹事

2026～2027年度理事、役員の立候補につきまして、本日より１ヶ月間、立候補の受付をいたします。

プログラム

「職場移動例会」（日本赤十字北海道看護大学）

岸本職業奉仕委員長

本日は、日本赤十字北海道看護大学学長であります安酸会員に卓話をしていただきます。安酸会員はきたみ観光大使でもあります。その後、看護大の中を見学させていただきます。貴重な体験になると思いますので、とても楽しみにしております。本日の卓話のテーマは「VUCAの時代に求められる看護教師の能力」です。情勢とビジネスを兼ね備えたテーマでございますので、どうぞよろしくお願いいたします。

卓 話 「VUCAの時代に求められる看護教師の能力」

日本赤十字北海道看護大学 学長 安酸 史子 会員

ご紹介ありがとうございます。本日は卓話の後、学内を食堂、図書館、実習室前、講堂、パソコン室とご案内いたします。きたみ観光大使として道外で講演することも多く、北見市以外の方が参加されるような講演の時は、最後に必ずふるさと納税のお願いをしております。北見の財政もかなり大変ですが、その中でもふるさと納税は去年より約３倍に増えているということです。

まず、大学について少しご紹介させていただきます。本学は27年前に開校いたしました。この赤十字のマークは中立と保護の象徴ということで、皆さんもご存じのロゴマークだと思います。災害支援などで赤十字の入ったユニフォームを着た看護師さんを見ると、それだけで癒されると言ってもらえるそうです。大学の基本理念は、ヒューマニティー（人道）に基づく看護教育ということで、赤十字の人道的使命を達成するための看護教育を行なっています。大学の設立には、知性、道徳、応用力を備えた看護専門職を育成し、国内外で活躍できる実践力のある人材を育てるという目的がありました。１桁台の期のときは、かなり偏差値も高く、倍率も高かったと聞いて

おります。私立大学が道内にあまりなかった時代ですので、優秀な方がたくさん来ておりました。開学から４年後に大学院の修士課程、2007年に看護開発センター、2015年に災害対策教育センター、2019年に大学院に助産学専攻を開設しております。2016年には最高学府である大学院の博士課程を開設いたしました。日赤の大学は全国で６大学ありますが、東京にある日本赤十字看護大学以外は単独で博士課程を設置できないので、私の前任である河口学長が、他５大学と連携して共同看護学専攻の授業をオンラインで行っています。私も現在３人の学生を受け持っており、１人は本学の教員、あとは神奈川と大阪の学生です。

さて、ＶＵＣＡという言葉は「Volatility（変動性）」「Uncertainty（不確実性）」「Complexity（複雑性）」「Ambiguity（曖昧性）」という４つの要素の頭文字をとったものです。変動し不確実で複雑で曖昧だという時代、まさに今の時代のことです。元々は、1987年にアメリカの陸軍戦略大学のカリキュラム開発資料で初めて登場した造語だそうです。冷戦の終結期には国際情勢の複雑化を背景に軍事用語として使われていましたが、2010年代以降はビジネスや教育、医療の現場で使われております。私もこの言葉を知ったのは最近のことで、コロナ禍の何が正解か分からないような時代を経て、「ＶＵＣＡ時代」という言葉が認識されてきたのかと思います。

皆さんにもご協力いただきました看護学教育学会という学術集会を８月末に開催させていただき、その際に「危機に立ち向かう看護教育」というテーマで基調講演を行いました。全国的にどの大学においても、学生確保の困難、教員確保の困難、度重なる災害、指導困難学生の増加と教員の疲弊、という状況に直面しております。特に学生の確保という点では、私が学長としてここに着任するまで、学生数は100名の定員を超えていましたが、私が着任した４月には98名、翌年は68名、今年も68名であり、３年連続定員割れの状況です。大学は学生の納付金で収入が成り立っており、それが減少するのは大変なことなので、私も高校への訪問や、色々な戦略を考えなくてはいけない状況にあります。また、皆さんもご存じのとおり18歳の人口が減っている状況に加え、ロケーション的に北見まで来てくれる人が多くありません。入学後も看護という学びはなかなか難しいところがあり、離脱する人もいます。その背景には、コロナ禍における過重労働のイメージが強く、親御さんが自分の子を厳しい環境に送りたくないという思いもあるようです。他には、進路選択の多様化により、同じ理系でも看護ではなく理学部に行きたい女性が増えているといったこともあります。また、以前は私学を受験する学生は５校程度受験していましたが、現在は平均３校程度にとどまっており、道内においては約1.8校と２校を切る数字になっています。昔だと国公立に入れなかった学生も入れる時代になってきて、ロケーションの悪い私学は深刻なダメージを受けています。教員確保の点では、教員の高齢化が進む一方で若手が定着しないことや、欲しい分野の教員が確保できないという問題に直面しています。また、バックグラウンドの話で言うと、最近の度重なる災害が挙げられます。災害という点でいうと、本学では厳寒期の災害訓練を毎年１月に泊まりがけで実施しており、全国から参加者が集います。今年は私も参加しましたが、気温はマイナス18度でした。来年も実施予定で、一般の方が対象ではないにも関わらず全国から興味のある方々の問い合わせが増えているそうです。最後に、指導困難学生の増加と教員の疲弊についてです。最近、発達障害という言葉をよく聞くようになってきました。昔から難しい学生はいましたが、最近は少し多くなってきたように感じています。私は発達障害に関して専門で研究していますが、出来る事と出来ない事の凸凹がある中で出来ない事が目立ってしまうため本人も苦しく、二次障害が起こることもあります。学生の特性を踏まえた上で専門的に教えることが必要ですが、教員が一生懸命やろうとすればするほど疲弊してしまうという状況に陥ります。

このような危機に立ち向かう看護教育の姿勢として挙げられるのは、まず大学が学生にとっての灯台であること、つまり安定した存在であることです。VUCAの不安定な状況であっても、先生が存在し、学生にとって安心感を持てる存在であることが第一です。次に、判断する力や倫理とケアに基づく意思決定をできる力を持っていることです。何を信じていいのか分からない時代でも教育を中断せず、再構築しながら前に進んでいく力が求められています。そして、教員自身のケアです。誰かがエンパワー（力を付与する）してくれるのを待つのではなく、セルフエンパワーメント、つまり自分自身をエンパワーする力が教員には求められます。セルフエンパワーメントしながらお互い支え合う、ケアをし合うケアリングマインドが教師と学生の間にも通ずるものがあります。ケアリングマインドとは、相手の存在を尊重し、共感し、支えようとする心の在り方です。教師は教える者というイメージで捉えられていますが、教える前にまずは聞くという姿勢を持ち、学生の可能性を信じるという関係性が重要です。教育の本質は、人を育てることです。教育の場を安心できる関係性で満たし、ケアをし合える場を作っていくことが大切です。

以上のことをまとめますと、ＶＵＣＡの時代に私達看護教師に求められる力は、ケアリングマインド（人に対するケアする力）、セルフエンパワーメント（自分自身にパワーを与える力）、そして私が最近注目しているのはネガティブケイパビリティ（答えの出ない状況に耐えて曖昧さを受け入れる力）です。これからは、答えを急がない勇気が教育の質を高め、教育とは未来へのケアであると考えております。

見学風景

会員の輪

ロータークトクラブは、市内や道内各地の同世代と異業種交流ができる場であり、会員同士の親睦を深めたり、地域ボランティアや奉仕活動への参加を通じて色々な経験ができますので、皆さまの職場の20代の方をご紹介いただけますと幸いです。北見ＲＡＣは現在９名で活動していますが、今年度中にあと６名増を目標にしていますので、ご支援ご協力のほどお願い申し上げます。　（北見ロータークトクラブ 副会長 加納　貢）

出席報告

出席報告	例会日	会員総数	出席免除者数	出席者数	出席免除者の出席数	事前メークアップ	事後メークアップ	確定計算出席数	出席率
計　算　式		A	B	C	D	E	F	C＋E＋F	C+E+F/(A−B)+D×100
本日	11／12	63	5	39	3	7	−	46	75.410%

【次回11月26日】　「Passion Talk」

2025～2026年度　北見R.C.活動方針

「クラブに革新を　笑顔で紡ぐ奉仕の輪」
～行動しようRotarianとして～

国際大会とは

ＲＩの国際大会は毎年会計年度の最後の３ヵ月中に開催されます。ロータリー家族の世界的会合でもあり、国際大会の本来の目的を減じない範囲で社交及び余興番組でロータリーの親睦を祝います。